



新緑

しんりよく



【発行】社会福祉法人 新緑福祉会 / 神戸市西区玉津町水谷字セリ合400-7 TEL.078-913-1277 FAX.078-913-1137 <http://www.shinryoku.or.jp/>

法人機関紙「新緑」の創刊にむけて

社会福祉法人新緑福祉会

理事長 平田 健次



このたび、法人機関紙「新緑」の創刊にあたり、巻頭言としてごあいさつ申し上げます。

社会福祉法人新緑福祉会は、1980年(昭和55年)4月に開設した「玉津むつみの家」を事業のスタートとして、36年間、神戸の知的障害者の福祉を担ってきました。現在入所施設1か所、通所施設5か所、グループホーム3か所に加え、地域生活支援センター2か所、発達窓口1か所の事業を実施しており、利用者は300人を超え、職員数は150名となっております。

私が岡島前理事長の後を受け理事長に就任して4年になります。今、事業所開設から36年がたち法人を取り巻く環境も日々大きく変化しております。なんといっても福祉サービスが充実し、利用者が自ら選べる時代になったことはとても大きな変化です。36年の実績を踏まえながらも、「新たな時代に対応できる法人になっているか」を自らに問うた時に様々な課題が浮かび上がってきております。まずは安定した法人運営をするためには何が必要なのか? 選ばれる事業所になるためには…などなど法人職員あげて真剣に議論をしていく必要があります。それぞれの事業所が知恵を出し合い、各種支援サービスの質の向上はもちろんのこと、送迎サービス、ショートステイ、福祉避難所としての役割等々、新規サービスの充実が欠かせません。また、先に策定しておりました中期計画の実現に向け、保護者、利用者の高齢化に伴うご家族の不安に対応すべく、しあわせの村内に「短期入所事業所、重度障害者グループホーム、相談支援事業所」の建設に向け、法人、施設長、職員が一体になって計画を進めております。

新緑福祉会がこれからもより良い福祉を提供していくためには、関係機関の皆様、利用者や保護者の皆様の協力を得ながら、時代に即した事業所運営ができることが大切です。そのための第一歩として定期的に機関紙「新緑」を発行することにいたしました。この機関紙が法人と関係各位の皆様、利用者の皆様とを結ぶものとなるとうれしいです。また、この広報誌はともに車の両輪で歩んできました「後援会」の情報についても発信してまいります。配布先につきましては、法人を応援していただいております皆様方にも発信していきたいと考えています。関係各位におかれましても引き続きご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

後援会機関紙「しんりょく」のご支援に感謝

新緑福祉会後援会
会長 川口 信弘



社会福祉法人新緑福祉会後援会機関紙「しんりょく」は、2000年10月に創刊号が発行されましたが、このたび、2016年6月に発行の第31号で終了いたしました。

16年間の長年に亘り、機関紙の発行にご支援・ご協力をいただきました会員をはじめ、関係者の方々に、心から感謝と御礼を申し上げます。

このたび、社会福祉法人新緑福祉会が、機関紙を発行されることになりました。その中に後援会のコーナーを設けていただきましたので、これからは、このコーナーで後援会の活動状況についてご報告いたします。

これまで、編集にあたっては、各関係者にご無理なお願いをいたしました。「巻頭言」につきましては、神戸市幹部、神戸市手をつなぐ育成会会長、新緑福祉会理事長、各施設長などの皆様にお願ひしました。「随筆」については、各施設の保護者の代表に執筆をお願いし、貴重なご意見・ご要望などをいただきました。「新緑福祉会施設の紹介」では、各施設の状況を、順次ご報告いただきました。お引き受けいただいた方々には、厚く御礼を申し上げます。有難うございました。

これからは、「しあわせの村まつり」「こうべ福祉・健康フェア」への参加、取り組み等をご報告いたします。また、「支援者名簿」につきましては、ご協力をいただきました賛助会員名を掲載いたします。賛助会員の皆様には、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様には、後援会に対して、更なるご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

しあわせの村まつり

新緑福祉会後援会が出店しました。

真夏の日差しが照りつける7月30日に、多くの保護者や職員の協力のもと、毎年恒例のしあわせの村まつりに出店しました。

これまでは後援会独自の取り組みでしたが、今回から準備、販売と保護者の子女への支援に職員が参加することで、新緑福祉会全体が力を合わせたイベントとなりました。

ビニール玩具の売り上げも上々。まつりに来た子供たちへ夏の思い出を残すお店でした。

お知らせ

10月9日(日)しあわせの村で開催される「こうべ福祉・健康フェア」へも、新緑福祉会と後援会が協同で出店して啓発を行います。

当日販売するリサイクル商品の寄贈をグリーンホーム平成で受け付けていますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。



いつかくるその日まで...

玉津むつみの家 保護者会 会長 岡崎 美香子

重度の知的障害をもつ自閉症の娘 葵美香が玉津むつみの家に通うようになり、4年目になります。それに伴い、母親の私も保護者会長という荷が重すぎる大役を仰せつかり、奮闘する毎日を送っています。

そんな生活の中で、どんなに忙しく身体がきついても続けなくてはならないのが、送り迎えです。思い返せば、児童相談所の母子教室に通い始め、次にのばら学園、地域の小学校への登下校、青陽西養護学校と青陽須磨支援学校へはスクールバスのターミナルまでと、常に2人で寄り添ってきました。

勿論、今ではガイドヘルプやショートステイを利用しているので、100%担っているわけではありませんが、それでも負担は相当なものです。

今年、約24年間同居してきた主人の母の認知症状がすすみ、歩行も困難になってきた為、特別養護老人ホームのほうに入所することになったのですが、高齢者の場合、介護保険制度があるおかげで、相談から決定まで驚くほどスムーズに物事がすすんで行きました。

私の場合、娘とのダブル介護の大変さを訴えたり、運が良かったせいもあるとは思いますが、それにしても早かったです。

それにひきかえ障害者を取り巻く環境は、本当に厳しいものだ実感しています。「親亡きあとは、親あるうちに」は、頭では理解できるものの、目の前に現実をつきつけられるまでは、動き出せないのもまた事実です。

高齢の親に対する思いとはまた違い、我が子を手放すというのは、いくつになっても切なく辛いものではないでしょうか。



ご寄贈いただきました

《神戸やまぶき財団様より》 平成28年5月

ワークホーム緑友の作業用トラック購入資金の補助金(182万円)を頂きました。
ありがとうございました。



《一般財団法人 川西報公会様より》 平成28年7月

600,000円のご寄付をいただきました。
新緑福祉会後援会からのご紹介です。
計画中の「短期入所事業所」「高齢・重度障害者対応グループホーム」「相談支援事業所」の創設費用に充てさせていただきます。
ありがとうございました。

《株式会社シャルレ様より》 平成28年8月

「マイルドUVミルク<日やけ止め乳液>顔・からだ用」780個をご寄贈いただきました。
夏の季節、屋外での活動に役立てて下さいとお気持ちを添えていただきました。
早速、法人内事業所の利用者様(ご家族)、全職員へ配布させていただきましたところ、たくさんの感謝の言葉をいただきました。ありがとうございました。



“平成”のこれからについて

グリーンホーム平成 施設長 竹本 繁弘



グリーンホーム平成は、今年の6月で開所28年目を迎えました。施設が出来るまでの2か月間、玉津むつみの家とワークホーム緑友に間借りをしていた我々は、屋外活動が中心だったので、特にしあわせの村で過ごされた方々は、今のように木陰がなく、真っ黒に日焼けをしました。

当時の様子を、NHKのある番組で紹介していただく機会がありましたので、今もDVDで大切に保管しています。最近、何度か見返すことがありましたが、皆さん(私も)とても若くて元気はつらつと活動されています。

それから約30年が経過した現在も、幅広い年齢層の中、暑さ寒さに負けないぞと、まだまだ元気いっぱい諸活動に取り組まれています。では、この先20年、30年後の平成の皆さんは、どのような生活を送っているのでしょうか。私は先日、群馬県の「国立のぞみの園」へ見学に行きました。

昭和46年に開所されたその施設は、利用者の平均年齢が62.6歳で、重介護型グループホーム「いしはら」の入居者の平均年齢は72.5歳、平均障害支援区分が5.9とのことでした。

施設にお住まいのご高齢者の女性とお会いしましたが、皆さん車椅子を使用され、お一人での移動が困難でした。また、日中活動は、余暇活動や趣味などを中心とした余生を楽しんでおられました。

一方、グループホーム「いしはら」の入居者は、日中、高齢者施設(デイサービス)を利用されたり、ヘルパーと買物でお出掛けをされたりしているとのことでした。



施設やホームの皆さんは、目的ある、充実した余生を悠々と過ごされつつも、現実には、加齢とともに生活能力が衰える中、出来る限りご自身で身の回りのことが出来るための住環境の整備や、きめ細やかな支援、介護なくしては実現しない、ということを学びました。

この見学を通して、法人が計画をしています「重度・高齢化に対応したグループホーム」において、どのような設備や支援が必要か、そして今、担うべき役割は何かを再認識することが出来ました。

これからも、誰もがいつか迎える“老い”について向き合い、皆さんと語り、共に考えていきたいと思っています。



神戸市立ワークセンターいわやの様子

神戸市立ワークセンターいわや 施設長 光岡 研士



神戸市立ワークセンターいわや(以下、「いわや」という)は、平成5年4月1日に法人内事業所として5番目に公設民営として設立されました。それから早くも23年目を迎え、建物や備品等の老朽化が見受けられるようになりました。

今年度、神戸市による修繕が今年度行われる予定です。特にトイレですが、和式を洋式に変えていただき、手洗いも自動水洗にさせていただきたく申し入れをしています。水への関心が強い方もおられるのでその対応も考えていきたいと思っています。そして、次にはドアの修繕も急務になっております。きれいで安全な生活環境を整え、安心して過ごしていただけるよう進めてまいります。

さて、いわやは平成21年4月1日より「旧法授産施設」から新事業体系「生活介護事業及び就労継続支援B型事業の多機能型事業所」に移行し、利用者の方も当初からご利用いただいている方は、学校卒業後だと41歳になっています。現在、いわやの利用者の方は68名(男性49名・女性19名)で、平均すると39.2歳となっています。そして、保護者の方につきましても高齢化が進んでいます。様々な状況におかれているとは思いますが、いわやを利用して「良かった」と思っただけのよう、これからは保護者の方とともに職員一同取り組んでいきたいと考えていますので、ご支援、ご協力をお願い申し上げます。



ワークセンターいわやの活動として、一部ではありますがご紹介させていただきます。

- 4月 「やっぱり日本の春は桜から」
- 5月 「～屋上deランチ～」
- 6月 「日中活動～手芸班～」
- 7月 「夏のイベント給食」



玉津むつみの家の紹介

玉津むつみの家 施設長 佐々木 信一

玉津むつみの家は、昭和55年4月に通所授産施設として開設された新緑福祉会最初の事業所です。現在、生活介護事業所として52名(定員50名)の利用者が通所されています。紙面を借りまして、玉津むつみの家の活動の一部を紹介させていただきます

送迎



通所および降所にマイクロバスで175号線から明石駅方面、ハイエースで神戸市営地下鉄西神中央駅方面に送迎を行っています。

しいたけ栽培(むつみの家のしいたけを使用した加工品)



むつみの家と言えば、“しいたけ栽培”！
原木より、肉厚のおいしいしいたけが育ちます。



しいたけ昆布佃煮(¥450)



しいたけノリ佃煮(¥350)

利用者の方が作業として育てたものを商品化し、いずれも好評をいただいております。他にも畑で育てた「にんにく」を使用した「にんにく醤油(¥500)」も商品化しています。(いずれも年数回の販売となっていますので、ご希望の際は、むつみの家までお問い合わせください。

今回は、作業のほんの一部を紹介させていただきました。

新人職員の自己紹介

グリーンホーム平成



三池 英之(みいけ ひでゆき) 支援員(契約)

私の仕事のモットーや座右の銘

福祉の仕事をはじめた頃、「パッチアダムス」という映画を観て、利用者と一緒に笑えるような支援をしたいなあ、と思うようになりました。利用者さんの各特性に戸惑いながら仕事を続ける内に、一緒に悲しんだり、泣いたりすることも大切だと思いました。どんな時でも皆さんに楽しんでいただくことが私の仕事観です。



西條 稔翁(さいじょう としお) 支援員(契約)

趣味や特技はコレ!

最近、医療系の小説ハマっています。特に、「チーム・バチスタの栄光」などで知られる「海堂尊」という、現役の医師で放射線医学の第一人者の作品を読み漁っています。推理、サスペンスの内容もたいへん面白いのですが、医療や行政のあり方に対しても深い内容があり、勉強になります。



山村 麗(やまむら うらら) 支援補助員(パート)

ココで働きたいと思った理由

私は、以前は病院で医療事務をしており、クライアントとのかかわりの中で、事務では出来ることに限界がある、そしてもっとクライアントやその家族の為に出来ることはないか、退院されたその先の生活でお手伝いできることはないかと思っていました。グリーンホーム平成に勤め始めて、毎日、はじめての経験ばかりで新鮮です。利用者の方たちとのかかわりは楽しく、とてもやりがいを感じております。



久松 暁(ひさまつ さとる) 支援補助員(パート)

ココで働きたいと思った理由

20数年前 自閉症の長男が生まれてから様々な方に支えられてまいりました。50歳を過ぎてから、自らも福祉の勉強をはじめた際、実習で最初にお世話になったのが、新緑福祉会でした。その時の利用者の方や職員の皆さんの温かい現場が私の福祉の原点になりました。60歳を迎えるにあたり、今一度この現場で過ごせることになりとても幸せな思いです。



長野 昭(ながの あきら) 看護師(嘱託)

ココで働きたいと思った理由

はじめまして。私はこれまで三障害(知的・身体・精神)で長年仕事をしてきた関係上、少しでも経験が活かされたいらいたいと思ひ応募しました。それぞれの施設には理念があり、それを遂行するために皆様の御指導を仰ぎながら、精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

玉津むつみの家



沢田 伸子(さわだ のぶこ) 栄養士

この仕事のやりがい

栄養士としてのやりがいを感じるの、やはり利用者みなさんからの「おいしかった!」の声と笑顔です。みなさんが大好きな食事時間を、もっと楽しみにしていただけるよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

新緑の家



小林 和子(こばやし かずこ) 看護師

私の仕事のモットーや座右の銘

縁あって働き始めましたが、病院の仕事との違いに戸惑いと不安を感じる日々です。でも、利用者の方と接しているうちに、なかなかコミュニケーションは取れないけれど、一人一人、素直で純粋であると感じるようになりました。名前は覚えてもらわなくても、顔を覚えてくれればいいかなと思っていた中、会話の少なかった方に、名前を呼んでもらった時はとても嬉しさを感じました。



音楽療法ご紹介

音楽療法研究会スタジオ・トレ
市毛 雅美

当法人で音楽療法をしていただいている「スタジオ・トレ」さんをご紹介します。

【プログラム提供施設】

ワークホーム緑友、グリーンホーム平成、神戸市立ワークセンターいわず、ここはの家、新緑の家



音楽療法を通じ、スタジオ・トレと新緑福祉会のみなさんとお付き合いが始まって、はや十数年が過ぎました。各施設での定期的なセッションだけでなく、合同行事やスマイルパーティー等で利用者みなさんと共に音を楽しんで参りました。

障がい者施設での音楽療法の目的は、情緒の安定・気分の発散・心身の賦活・コミュニケーション能力の強化・自己実現・協調性を高める等さまざまです。施設ごとに目的やアプローチの方法は異なりますが、みんなで楽しく進めて行くことを我々は心がけています。

先日ある職員さんから「先生方は、普段とは違う利用者さんたちの表情や笑顔をいつも見られて良いですね。」という言葉頂きました。本当にそのとおりだと思います。音楽の持つ大きな力のおかげで、音楽療法士はどんなハンディをもつ方々ともふれあい、そして繋がる事ができるのです。有難いことです。

さて、スタジオ・トレは今年20周年を迎えることができました。このような長きにわたり続けて来られたのも、私達の活動に関わって下さったすべての皆様のご理解とご支援の賜物であると感謝いたします。

ここでちょっと トレからの宣伝です。20周年を記念しまして、コンサートを開催します。

《輪トレコンサート》

10月30日(日) 13時より JR.山陽垂水駅北 レバンテ垂水2番館 レバンテホールにて
詳細は新緑福祉会の各施設のポスターをご覧ください。

障がいのあるなしにかかわらず、どなたも楽しめるコンサートになっています。ご家族お友達お誘い合わせのうえご参加ください。

緑友の有志による和太鼓演奏もあります。大きな声援おねがいします。

スタジオ・トレのメンバーもいつもと違う姿で演奏します。乞うご期待。

その他豪華ゲストも出演予定。

歌ったり踊ったりみんなで一緒に楽しみましょう。



とこは's kitchen

とこはの家 主任栄養士 齋藤 久三子

とこはの家では、年間で、様々な行事食を提供させていただいています。

七夕・土用の丑・ハロウィン・クリスマス・七草粥・節分・ひな祭りなどです。その中でも、皆さんがとても楽しみにされているのが、夏祭りの屋台メニューです。

職員が、「今年も皆さんに喜んでいただけるメニューは、何がいいか」と相談し、たこ焼き・焼き鳥・飲茶セット・かぼちゃの冷製スープ・マンゴープリンに決めました。

お祭り当日は、盛りだくさんで、何から食べようかと迷われるほどの大好きなメニューが並び、皆さんの笑顔がたくさんみられました。

これからも、季節を感じられるような行事食、そして、安全で喜ばれる食事の提供ができるようにしていきたいです。



支援者芳名録

【平成28年3月～7月】

賛助会員名(敬称略)

堀江 善也、稲垣 順子、竹内 洋子、川口 信弘、三木 裕子、柚木 忠浩、濱田みや子、出来 竝江、木下トヨミ
松岡 久子、松吉慶四郎、高崎 康夫、中尾 弘三、大山 春江、細越ツヤ子、道畑 武之、永原 隆嗣、片山 進
有本 政一、岡 立男・早苗、吉田 裕子、森村 正一、墨谷 悦子、長谷川まさえ、坂口 民子、秋葉 義夫
池田 恭子、村川美和子、胡谷 一彦、門脇 重道、浅田ルミ子、福永 昭三、後藤久美子、大泉 恵子、関 振民
竹内 甲治、小池 正子、門脇ミツ子、酒井 昭夫、松田 邦子、上垣 貴美、光岡 研士、小阪 敦子、松本 宣親
本田 茂、田中伸布子、松岡 正道、丸尾 宗茂

会費合計 180,000円

寄付者名(敬称略)

石井 亨、中妻満知子、広瀬真奈美、岡村 博、匿名希望 1名

寄付金合計 78,000円

会費・寄付金合計 258,000円

賛助会員勧誘のお願い

新緑福祉会後援会(以下、後援会)は、社会福祉法人 新緑福祉会(以下、法人)に対し、毎年、施設用地の取得に係る借入金の償還金相当額540万円の財政支援をしています。

また、各施設の建物改修、設備の更新等の経費に対しても、毎年、支援をしています。

さて、法人では、平成26年11月に、平成27年度から3年から5年で達成すべき中期計画を定めました。中でも、保護者・利用者の高齢化に伴い、当面の課題として短期入所施設の設置要望が高まっており、しあわせの村内に、この短期入所施設を実現すべく計画を進めています。新たに、施設の建設となりますと、更に多額の資金が必要となっており、資金集めに取り組まねばなりません。

そこで、後援会としては、厳しい社会情勢ではありますが、今後もさらに法人と連携し、収入の拡大に努めます。後援会の設立の趣旨にご理解を賜り、一人でも多くの新しい賛助会員のご勧誘をしていただきますよう、また、すでにご加入頂いております賛助会員の方々には、ご加入の継続をご推奨いただきますよう、お願い申し上げます。

🌿 年会費：個人会員 1口 3,000円 団体会員 1口 10,000円 (1口以上のご寄付をお願いいたします)

🌿 振込先：郵便振込 口座番号：0096-2-145979 加入者名：新緑福祉会後援会

🌿 後援会問い合わせ先：新緑福祉会本部 事務局内 新緑福祉会後援会
(〒651-2121 神戸市西区玉津町水谷字セリ合400-7 TEL.078-913-1277 FAX.078-913-1137)

🌿 新緑福祉会のHP (<http://www.shinryoku.or.jp>)に、後援会を関連機関として紹介しています。

編集後記

社会福祉法人新緑福祉会の機関紙の創刊号をお届けします。引き続き研鑽を重ねて、より良いものに育ててまいります。併せて、ホームページもぜひご覧ください。

私たちを取り巻く環境は、社会福祉法人制度改革とともに激動の時期に入っています。

その中で「利用者個々人の人生に寄り添い、そのご家族や、さらに事業の携わる職員も含めた幸せを希求する、社会福祉事業を継続し、発展させる」べく、事業を推進してまいります。

お問い合わせ先

新緑福祉会本部 事務局

〒651-2121 神戸市西区玉津町水谷字セリ合400-7 TEL.078-913-1277 FAX.078-913-1137